



東 田

令和8年8月27日 NO.598

杉並区立東田小学校

<http://www.suginami-school.ed.jp/higashitashou/>

いつ起こるかわからない天災 その時のために

校長 齋藤 瑞穂

2学期が始まりました。校内には子どもたちの元気な姿がもどり、明るい声があふれています。教室では、例年通り、友達や担任との再会を喜び、互いに夏休みの間のできごとを報告し合う様子が見られます。1学期末よりグンと背が伸びた子がいれば、日に焼けた肌がたくましい子、顔つきが大人びてきた子、髪型が変わってイメージチェンジした子…などなど、それぞれの夏の過ごし方を想像するのも楽しいものですが、そんな楽しみも、子どもたちが元気に登校してきたからこそのものであります。40日の夏休み期間、子どもたちの命にかかわるような事故や事件の報せなく今日を迎えられたことが何よりうれしく、ご家庭はもとより、学童クラブやチャッピーズ、その他地域の皆様による様々な子どもたちの見守りに、心から感謝申し上げます。

＊＊

＊＊

＊＊

＊＊

さて、この夏休みは、地震や大雨といった災害が相次ぎました。東京でも、震度5弱の地震があったり、レベル4を超える特別警報が度々発出されるほどの大雨に見舞われたりと、改めて自然の脅威を感じずにはいられませんでした。天災は忘れた頃にやってくると言いますが、最近は忘れる間もなく全国で立て続けに何某かの自然災害が起きています。日本で暮らす私たちにとって、防災のための学びの重要性はますます高まっています。

東田小学校では、命を守る行動について、様々な機会をとらえて子どもたちと考えるようにしています。毎月の避難訓練や安全指導に加え、4学年は6月に「そなエリア（国営防災体験学習施設）」を見学してきましたし、9月には全校朝会で防災の日に因んだ講話を行います。

なかでも特に大切にしているのは、3学期の土曜公開日の防災授業です。全学年で防災をテーマに学習し、その様子を保護者の皆様に参観いただいています。学年の発達段階に応じた学びを工夫して、高学年では、東田小学校震災救援所運営協議会の方々のご協力のもと、防災倉庫の見学や、簡易トイレの組み立てや応急救護訓練、備蓄非常食の作成や試食など、震災救援所開設レベルの大きな震災に備えた、より実践的な体験学習に取り組んでいます。一度の体験でどれほどのことが身に付くのかという声もありますが、一度でもやってみるのとみないのとはやはり差は大きいでしょうし、子どもたち（参観される保護者の方も含め）と震災救援所運営協議会の方々が互いに顔見知りになるだけでも、いざという時には大きな力になるはずです。

まず第一に「自分の命は自分で守る」。その上で、さらに「自分が誰かのためにできることを考えて行動する」。そうした力を付けられるよう、子どもたちの意識を自助から共助へと高めていきたいと考えています。

いつ起こるかわからない天災、その時のために、一人一人がしっかりと心構えしておくこと——これからも、何度でも繰り返し子どもたちと確かめていこうと、強く思われた夏でした。

最後になりましたが、令和8年熊本地震、また先日の千葉豪雨により被災された方に心よりお見舞い申し上げます。一日も早く日常を取り戻すことが叶いますよう、お祈りいたします。

8・9月の生活目標

心をこめて あいさつしよう

2学期の始まりです。心をこめてあいさつをして、おたがいにきもちよく新学期を始めましょう。
明るいあいさつがあふれる東田小学校をつくっていきましょう。

～ よりよい学校生活のために ～

- 持ち物への記名をして物を大切に、ほかの人の物は勝手に使わないなど、マナーを守りましょう。
- 楽しい給食にするために、食事のマナー（箸の持ち方、器を持って食べる、姿勢など）に気を付けましょう。